宗教文化論 II

科目ナンバリング　RES-102
【Ⅱ】　選択　2単位

藤本　龍児

1. 授業の概要（ねらい）

あなたは、世界のなかで最も宗教的な国はどこだと思いますか?
日本では、中東にあるイスラームの国々を挙げる人が多いかもしれません。
しかし統計調査などによると、そうした国々と同じくらい宗教的なのがアメリカです。
この事実は、日本人が持っているアメリカのイメージとは大きく異なるでしょう。
アメリカは、ファッションや音楽、政治制度、経済システムなど、いずれも最先端にいます。
したがって、近代化の先頭を走ってきたのがアメリカだ、という印象が持たれてきました。
ところが、そうしたアメリカ像は、とくに21世紀に入ってから変更を迫られるようになっています。
それではアメリカは、どういった意味で宗教的なのでしょうか。
あるいは、どうして現在でも宗教的なのでしょうか。
この講義は宗教文化論Ⅰに引き続き、「宗教」についてアメリカ社会とその歴史を例にしながら学びます。

2. 授業の到達目標

現在でも「宗教」が大きな影響力をもっていることを認識し、その理由について理解する。

3. 成績評価の方法および基準

・原則として8割以上の出席を前提とする。
・適宜おこなう感想文の提出を必須とする。
・試験において講義内容とテキストにかんする理解度を問う。
・以上に授業態度をくわえ、総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書
藤本龍児　『アメリカの公共宗教：多元社会における精神性』2009年　NTT出版

5. 準備学修の内容

この講義には、特別な前提知識は必要ありません。
しかし内容を理解するには、自分の経験と合わせて考えることが重要になります。
講義中はもちろん、日常生活のなかでも、実体験と合わせて考えてみるようにしてください。

6. その他履修上の注意事項

この講義だけで一つのまとまりをもっていますが、宗教文化論Ⅰを履修していることが望ましい。
講義は以下のような内容を計画しています。ただし、受講者の理解や関心に応じて柔軟に改変していきます。

7. 授業内容

【第1回】　はじめに
【第2回】　南北戦争後のエヴァンジェリカルズ
【第3回】　ソーシャル・ゴスペル
【第4回】　ファンダメンタリストの登場
【第5回】　第一次世界大戦と宗教
【第6回】　ネオ・オーソドキシー
【第7回】　第二次世界大戦と教会
【第8回】　キング牧師の活躍
【第9回】　ビリー・グラハムの影響力
【第10回】　ヴェトナム戦争への姿勢
【第11回】　公立学校における祈り
【第12回】　新しいエヴァンジェリカルズ
【第13回】　宗教右派
【第14回】　宗教左派とティーパーティ運動
【第15回】　おわりに